

Title	自由位相群ノ極大概週期性
Author(s)	中山, 正
Citation	全国紙上数学談話会. 254 p.321-p.324
Issue Date	1943-06-15
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/75060">https://doi.org/10.18910/75060</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 1127 自由位相群 / 極大概週期性

中山 正 (名大)

岩澤君ハ「位相数学」4-2 = 自由群其、他、色々  
 / 群 / 極大概週期性ヲ論ビラレマシタ。コレニ關係シ  
 テ、寔ニ自明ニ近イコトアリマスガ、Markhoff  
 / 自由位相群  $\approx$  極大概週期的ニナル群アリマス、以  
 以下ソレヲ述ベテミマス。

$S$ ヲ完全正則ナ位相空間、 $F$ ヲソレデ生成サレタ自由  
 位相群トスル。 $F$ ノ任意ノ一ツノ元 $g$ ヲ考ヘ (且シ $g \neq 1$ )  
 ソレヲ $S$ ノ元ノ中積ト表ハス $g = u_1 u_2 \cdots u_n$ ナル $S$ ノ元ヲ  
 $u_1, u_2, \dots, u_n$ トスル:

$$g = u_{i_1}^{\pm 1} u_{i_2}^{\pm 1} \cdots u_{i_m}^{\pm 1}$$

今 $m$ 個ノ元 $u_1, u_2, \dots, u_n$ デ生成サレタ自由群 $F_0$   
 ヲ考ヘ、ソコガ $g$ ヲ含マス $F_0$ ノ不変部分群 $N_0$ ヲ( $F_0 : N_0$ )  
 が有限 $+ \infty$ ノヲ採ル (ソノ存在ハ Magnus / 定

理より明か。上記岩澤氏所説参照)。今  $F_0/N_0$  のように  
 して一組表現  $A(g)$ , ( $g \in F_0$ ) を  $A(g) \neq E + \lambda \in \mathbb{C}$  17  
 考へる。簡単のため

$$A_1 = A(u_1), A_2 = A(u_2), \dots, A_n = A(u_n)$$

トおく。扱へ、うに一組行列群  $\mathcal{U}$  の連結がカラ  $E$  と各  
 $A_i$  を  $\mathcal{U}$  の中へ連続写像が結ぶ:  $A_i(t)$  ( $0 \leq t \leq 1$ )  
 ( $A_i(0) = E, A_i(1) = A_i$ )

他方  $S =$  於て各  $u_i$  を至 = 共通点、 $\pm i$  近傍  $V_i$  が  
 囲む。而して各  $i$  につき、 $u_i$  が  $1$ ,  $V_i$  の外で  $0$  となる  
 $[0, 1]$  の値を持つ連続函数  $f_i(x)$  ( $x \in S$ ) を作る。  
 今  $S$  の元  $x$  に対して

$$A(x) = \begin{cases} E & (\text{若し } x \text{ がどの } V_i \text{ にも属せず時}) \\ A_i(f_i(x)) & (x \in V_i \text{ のとき}) \end{cases}$$

トおく。(特に  $x = u_i$  のとき  $A(u_i) = A_i$  となるカ  
 ラ元束の定義と一致して可なり)。然るば  $x \rightarrow A(x)$  は  
 $S$  から  $\mathcal{U}$  の中へ連続写像となること明か。こゝで自由位相  
 群  $F$  の性質により、その拡張として  $F$  から  $\mathcal{U}$  の中へ連続  
 準同型、即ち  $F$  の連続うに一組表現が得られる。特  
 に  $A(u_i) = A_i$  が成り、我々  $g$  に対しては

$$A(g) = A_{i_1}^{\pm 1} \cdots A_{i_n}^{\pm 1} \neq E$$

$g$  は  $F$  の任意の元 ( $\neq 1$ ) がカラ  $F$  は maximally al-  
 most periodic である。(証了)

斯クテ  $F =$  新タ = 完全有界ノ位相が入ッテ, ソレデ  
 $F$  カマタ位相群ニナルヲケデアルガ, ソレヲ  $F'$  デデモ表  
ス。自由位相群  $F$  トシテノモトノ位相ヨリ弱ク, 一般ニ  
ハ本質ニ弱イデアリマセウガ, 一寸面白イコトハ  $S$  ノ上  
デハ同じ位相ヲ興ヘルコトデアリマス。何デモナイコト  
デスガ。即チ  $S$  ノ一点  $u$ , 及ビソノ近傍  $V =$  對  $V$ , 例ノ  
如ク  $u$  デノ云々ノ連続函数  $f(x)$  ヲ考ヘ, ソレヲ  $\alpha(x) =$   
 $e^{\pi i f(x)}$  トデモオケバ  $S$  カラ単位円ノ上ヘ, 連続寫像  
ガ得ヲレテ  $\alpha(u) = -1$ ,  $\alpha(x) = 1$ ,  $x \in V$ . コレヲ上  
記ノ如ク  $F$  ノ表現ニマデ擴張スレバ, ソコデ  $|\alpha(g) -$   
 $\alpha(u)| < 2$  ナル  $F'$  ノ意味,  $u$  ノ近傍ノ  $S$  ニ属スル部分  
ハ  $V$  ニ含まレル。コレデ  $F'$  デヤハリ  $S$  ガ部分空間ニナ  
ルヲケデアリマス。ソレデ  $F'$  ハ丁度例ヘバ自由完全有界  
位相群トヨクベキ性質ヲモツモノデアリマセウ。

次ニ  $S$  ハコノ  $F'$  ノ中デモ閉ガテキルコトヲ証明シマ  
ス ( $F$  ニツイテノ同様ノコトハ Markhoff ニアル)。  
ソレモ簡單デ,  $g$  ヲ  $S$  ニ属サヌ  $F$  ノ任意ノ元トスル,  $u_1,$   
 $u_2, \dots, u_n$  ヲ上ト同じヤウニ意味トシ,  $F_0$  ( $F_0:$   
 $N_0$ ) ガ有限ノ不変部分群デアッテ mod  $N_0$  デ  $g$  ガ  $u_1,$   
 $\dots, u_n$  ノドレトモ一致シナイ様トモノトスル。ソコデ  
例ヘバ  $F_0/N_0$  ノ  $tr$  元ノ  $n$  個ノ表現  $A(h)$  ( $h \in F_0$ )  
ヲトリ, ソレカラ上記ノ様ニ  $F$  ノ  $n$  個ノ連続表現  
 $A(h)$  ( $h \in F$ ) ヲツクルノデアルガ, コノ際  $E$  ト各  $A_i =$

$A(u_i)$  ヲムスブ路ガ  $U$  ノ中ノ  $A(g)$  ノアル近傍ヲ通  
 ラナイヤウニスレバ確カニコノ  $A(h)$  デノ距離ノ意味デ  
 $g$  ハ  $S$  カラ正ノ距離ヲモツカラ主張ガ成立ツ。而シテ  $A(g)$   
 ヲトホラス路ノ存在ハ  $A(*)$  ガ一次ノ表現デナイヲモツ  
 テ来テオケバ明カデアラウ。

ナホ、取り立テテ云フホドノ事デモナイカモ知レマセ  
 ンガ、上ノ如ク  $S$  ガ完全有界ナ  $F'$  ノ部分空間ニナルヲス  
 カラ、任意ノ完全正則ノ位相空間ハ適當ノ Compact group  
 ノ中ニ imbed 出来ルナドトイフコトガ知レルヲケデアリ  
 マセウ。マス normal デナイ完全有界ノ group ノ存在  
 ニ出レルヲケ。

モーツ。  $S$  ト  $F$  及ビ  $F'$  トノ關係デスガ、 $S'$  ガ  $0$ -di-  
mensional ナラ  $F'$  ニ從ツテ  $F$  モ  $0$ -dimensional  
 デアリマス。ソレハ例ハバ上述証明中デ  $V_i$  ノ開且ツ閉ニ  
 トリソコノ連続函数  $f_i(x)$  トレテ  $V_i$  デハ  $1$ 、 $V_i$  ノ外デ  
 ハ  $0$  トスレバ結局  $A(h)$  ハ有限表現デ、ソレデ  $g$  ガノト分  
 離出来ルノデスカラ明カデアリマス。(然レ、モシ  $S'$  ガ  
 $0$ -dim. デナケレバ  $F$  及ビ  $F'$  ハスベテ  $\infty$ -dim. ニナル  
 コトニ容易ニ知ラレマセウ)。

—— 以 上 ——